

平成 28 年 1 月 21 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 28 年 1 月 21 日 (木曜日)
午後 3 時から午後 3 時 45 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	若月 和浩
教育総務課長	武樋 正隆	教育施設課長	中村 仁
学務課長	茂田井裕子	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	波多 文子	保育課長	大野 宏
中央公民館長	佐藤 実	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹
学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	水内 智憲	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	清水 晶子	学校教育課指導主事	岩田 孝志

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2		議席の指定
3	第1号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会1月定例会を開会する。

日程第1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第44条第2項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

日程第2 議席の指定

(大橋委員長) 日程第2 議席の指定を行う。議席の指定については、会議規則第7条の規定に基づき、委員長が指定することになっているため、ただいまの着席のとおり指定する。

日程第3 議案第1号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(大橋委員長) 日程第3 議案第1号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 今回の該当者の功績内容は、迅速な通報により女性の自殺を未然に防いだ模範的行為である。対象者は、小学校3年生と保育園児の姉弟である。昨年11月29日午後1時30分頃、母親の実家である小千谷市内において、車の中から近くの川の土手付近で横になっている女性を見つけた。変だと思い、近くにいた母親に女性の様子を伝え、母親がその女性に声をかけると、「自殺しようと思っ

ていたが、怖くなった」と話した。そのため母親が警察に連絡した。この姉弟の発見により女性の自殺を未然に防ぐことができたものである。この功績については、新聞でも報道され、小千谷警察署から感謝状が贈られた。表彰基準は「人命救助」にあたり、長岡市教育委員会表彰被表彰候補者として推薦したものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、次の表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定する。

(大橋委員長) 条項第1号の新保真波さん及び新保岳流さんについて、被表彰者として決定して良いか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 「適」として決定する。

(大橋委員長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。次に、協議報告事項に移る。最初に、次期長岡市総合計画について事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 平成27年度をもって、平成18年度から始まった長岡市総合計画の10年の計画期間が終了する。この間、合併による新市のまちづくりや、災害からの復興をはじめ、各分野の諸施策を進めてきた。昨年には、長岡版総合戦略である長岡リジュベネーションを策定した。これらを踏まえ、今後10年間のまちづくりの基本構想として、次期長岡市総合計画を策定するものである。策定の検討体制だが、産業界・大学・関係団体の代表などの25人からなる総合計画策定委員会で審議している。委員長は商工会議所の丸山会頭であり、委員として、子ども子育て会議委員長や事務評価委員長、市P連会長等もメンバーとなっている。そのほかの検討体制として、議会の議員協議会や行政内部では総合計画庁内策定会議あるいは分野ごとの分科会での審議を進めている。さらに、2月にはパブリックコメントによる市民の意見を反映する手続きを進めていく予定である。計画の構成は第1章から第4章になっている。これまでの計画は基本構想と基本計画に分かれていたが、基本構想に相当するのが次期計画の第1章から第3章であり、

総合計画の仕組みや、長岡市の現状、将来像等をまとめている。第4章がこれまでの基本計画にあたるもので、6つの政策に分かれている。この内の「政策2 人材育成」が、子育て支援や生涯学習を含めた教育に関わる部分であり、教育委員会に特に関係の深い部分である。今後のスケジュールであるが、1月22日に総合計画策定委員会が開催され、2月から3月に開かれる議員協議会での意見を踏まえ、また、パブリックコメントを2月上旬から中旬にかけて実施したうえで、最終的な総合計画案を3月の定例市議会に提案し、議決を得るものである。それでは、「政策2 人材育成」について説明する。子育て支援や教育の充実、市民主体の文化・スポーツ活動への支援などにより、長岡への愛着と誇りを持った人材の育成を目指すということで、子育て支援や教育分野・スポーツ・生涯学習を含めた「人づくり」の政策を掲げている。特に、昨年、総合教育会議で策定した教育大綱でも触れた、ふるさとへの愛着と誇りを盛り込みながら、人材育成について記載している。全体としては現状認識をふまえて今後の方向性を示しており、前段は学校教育、スポーツも含んだ文化の現状と今後の方向性について、後段では子育て支援についての現状と今後の方向性を記載している。「施策の柱2-1 郷土愛の醸成による人材の育成」については、ふるさとへの愛着と誇りを持たせ、柔軟でたくましい人材を育成していこうというものである。米百俵の精神や、縄文文化・火焰土器をはじめとした歴史的・文化的遺産の継承・活用を進める。また、長岡空襲の歴史をもとに、平和を希求する学習を推進する。さらに、青少年の健全育成によるリーダー育成についても記載している。「施策の柱2-2 子ども・子育て支援の充実」では、子どもたちが健やかに育ち、誰もが子育てしやすい社会を目指すとして、「長岡版ネウボラ」の拡充をうたっている。保育サービスの充実や、放課後の居場所づくり、子育てのネットワークづくりに加え、家庭の教育力を育み、子どもたちに「いのち」の大切さを伝える教育を進めていくなどの内容を記載している。「施策の柱2-3 質の高い教育の推進」は、主に義務教育が中心になっている。熱中・感動体験の充実に取り組むとともに、一人ひとりの可能性を引き出し伸ばす教育、どの子にも分かる授業の実現といった、まさに「熱中！感動！夢づくり教育」を進めていく。また、特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備・充実、学校施設や通学路の安全対策に努め、食物アレルギー

一への対応を推進する。これにより、発達に応じた切れ目のない支援を充実させ、市民総ぐるみで子どもを育てるといった内容になっている。「施策の柱2 - 4 生涯にわたるまなびの場の充実」は、社会教育・生涯学習、文化・スポーツなどの学びの場の充実を進めるものである。現行の総合計画は、ある程度施策の内容にも触れながら実際の事業などももう少し詳細な記載もあるが、次期総合計画は大枠を示した基本構想となっている。最後に、次期教育振興基本計画との関係であるが、次期総合計画の子育て・教育分野である「政策2 人材育成」をもとに教育振興基本計画を策定したいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 施策の4本の柱は大変わかりやすい。これまでの施策は「熱中！感動！夢づくり教育」に偏り、「質の高い教育の推進」にほとんど重点が置かれてきたのではないかと感じていた。それが、この次期総合計画で「郷土愛の醸成による人材の育成」が柱の一つとして掲げられ、今後「熱中！感動！夢づくり教育」との結びつきをどうするのか、その検討を待ちたい。具体的にどういう取組になるのか見通しが欲しいところである。また、「生涯にわたるまなびの場の充実」については、社会教育や生涯学習を含め、文化財やスポーツにまで触れており、大変すばらしい構想である。すべての施策の柱を通じて、「熱中！感動！夢づくり教育」に今後どのように繋がっていくかが大切である。

(武樋教育総務課長) 次期総合計画は現行計画と違い、施策の柱という形で基本構想を示したものとなっているため、具体的な施策の記載は無い。そのため、具体的にどのような事業を進めていくのかを事務局で検討し、次期教育振興基本計画を策定したい。

(大橋委員長) 他に質疑・意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑・意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、平成27年度 文部科学大臣優秀教職員表彰について事務局の説明を求める。

(山之内学校教育課主幹兼管理指導主事) 平成27年度 文部科学大臣優秀教職員表彰は、大島小学校 高松敏之教諭が受賞した。表彰理由として、高松教諭は平成

21 年度から大島小学校の言語通級指導教室の担当として、医師の指導を受けながら児童一人ひとりの言語症状に応じた的確な指導を行い、改善・軽減に取り組んできたものである。また、言語通級指導の専門家として、長年、中越地区をリードし、言語通級指導の向上に尽力してきたことが認められた。本表彰の候補者は、新潟県優秀教職員表彰の受賞者の中から推薦されることになっている。今年度は 30 名が県の表彰を受けており、市内からは 3 名が表彰されている。新潟県の優秀教員表彰は、高松教諭のほか、阪之上小学校の高橋豊教諭、越路中学校の小林浩子教諭が特別支援教育の分野で受賞した。文部科学大臣優秀教職員表彰は、1 月 18 日に東京のメルパルクホールにおいて表彰式が開催された。今後、この功績を広く長岡市内の教員に還元させるよう、研修・紹介の機会を持ち、各学校の特別支援教育等の参考にしてもらいたいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑・意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、平成 27 年度 長岡市の子どもたちの体力について事務局の説明を求める。

(岩田学校教育課指導主事) 全国規模の体力調査であり、児童・生徒を対象に、今回が 8 回目の調査である。全国的な傾向としては、小学 5 年生・中学 2 年生とも、女子は 8 年間で最高得点をあげた。運動が好きだという数値が伸びており、運動に親しむ機会を増やす取組が功を奏しているといえる。8 種目あるが、種目別では「握力」と「ボール投げ」の成績の低下に歯止めがかからない状態であり、小学 5 年生・中学 2 年生男女とも最低の数値となった。原因としては、幼少の頃から重いものを持つという体験の不足や、キャッチボール等のボール遊びの体験不足が指摘されている。次に、新潟県の傾向であるが、小学 5 年生の男女・中学 2 年生の男子において全国 3 位、中学 2 年生の女子においても全国 6 位と大変優秀な成績である。県の保健体育課の事業である「1 学校 1 取組」が今年で 12 回目を迎え、その成果が出てきていると考えられる。この取組は、体力調査の結果を受け、各学校が対策を立て、その結果について毎年報告していくものであるが、毎年の取組の蓄積が実を結んでいるのではないかと思われる。新潟県の子どもたちは、運動部への所属率が高

く、小学5年生・中学2年生とも、全国と比較しても高い所属率となっている。生活面では、朝食を必ず摂る、早寝早起き、スマートフォン等携帯電話・ゲームの使用時間が短いなど、生活態度が良いことも好成績の要因と考えられる。小学5年生の男女とも、全国3位である新潟県の平均を上回っており、極めて高い数値となっている。特に男子は8種目中7種目で新潟県を上回っている。要因としては、運動部への所属率が県よりも高いこと、運動が好きだと答えた児童が県平均よりも高いことがあげられる。女子は8種目中4種目で県の平均を上回っている。女子の運動部への所属率、運動が好きと答えた児童の割合は県や全国よりも低いが、そのような中でも大変高い能力を示している。今後、運動が楽しいと思わせるような体育の時間や部活動などの工夫が必要である。中学校2年生の男子は総合点ではほぼ新潟県と同等であり、非常に高い運動能力を示している。男子は運動が好きだという生徒の割合が全国・県よりも高く、運動への興味関心の高さが、運動能力の数値にも反映されていると考えられる。地域のスポーツクラブへの所属率も全国や県よりも高く、長岡市スポーツ協会・教育委員会・学校との連携の成果が出ている。唯一「50m走」が全国平均、県平均を下回っており、課題となっている。女子は合計点で県平均に及ばない数値であるが、全国的にみると高い数値となっている。良い傾向としては、男子と同様に、地域のスポーツクラブへの所属率が高いと言える。気になる傾向としては、運動が好きだという生徒が全国・県よりも少なく、興味関心が低いと言える。そのため、興味関心を高める授業・部活動が必要である。長岡市の子どもたちが高い運動能力を示している背景として、「熱中！感動！夢づくり教育」事業で行っている「ふれあいスポーツアシスタント事業」や「夢づくりスポーツ推進事業」など教育委員会とスポーツ協会の連携事業の成果、学校が実施している「1学校1取組」の成果、地域のスポーツ団体との連携の成果などがあげられる。種目別には「50m走」と「ボール投げ」が課題となっている。「ボール投げ」については小学5年生のデータで、よく「投げる」運動をしているかという質問に対して「している」と答えた数値が、男女とも全国より低かったことから、普段の遊びの中で「投げる」運動が少ないと思われる。神田小学校の「1学校1取組」の成果の中で、休み時間ごとに学年でボール使用を決め、ボール投げの経験を積ませたところ、ボール投げの成績が伸びたという報告がある。こうした取組が大事である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 現在、パソコンを良く使う子どもが増えている一方で、クラブチームに入っている子どももいる。そこで運動能力の二極化が進んでいるということはあるのか。

(岩田学校教育課指導主事) データとしては無いが、そういう状況はあると思う。スマートフォンや携帯電話については、新潟県は全国と比べると使用時間が少なく、長岡市は県には届かないが生活態度は良い数値である。

(大橋委員長) 「50m走」の成績が全国・県を下回っているがどうか。

(岩田学校教育課指導主事) どの学校でも運動会などで「50m走」、「100m走」などが行われているし、親善陸上大会でも6年生全員が「100m走」を行っている。

(竹内学校教育課長) 実際のところ、このくらいの秒数の差は、ゴール直前での声掛けがあったかどうかにもかなり影響を受けるといえることがあるようだ。指導の仕方でもっと良くなる可能性がある。

(山之内学校教育課主幹兼管理指導主事) 今回、全国の中学校男子「50m走」の成績は過去最高であった。その中でこの数値ならば悪くないと考えている。

(大橋委員長) 他に、質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、川崎保育園・日越保育園の民営化について事務局の説明を求めらる。

(大野保育課長) 保育園の民営化については平成29年4月から実施の予定であり、その移管先法人を決めるための公開プロポーザルが先日実施されたので報告する。公開プロポーザルは、平成27年12月18日に行われ、学識経験者・保護者代表・行政関係から成る長岡市立移管先法人検討会議委員9名が評価した。公開であったので、保護者、関係者12名が傍聴した。川崎保育園の申請法人は、長岡市内で東部保育園などを経営する社会福祉法人東光会、栃尾地域でみどり保育園やデイサービスセンターを経営する社会福祉法人みどり社会福祉協会、栃尾・見附で保育園を経営する社会福祉法人芳香稚草園の3法人である。日越保育園の申請法人は、三島で保育園を経営する社会福祉法人はなみずき福祉会、認定こども園を経営する学校法人華光学園、現

在認可幼稚園・保育園の経営はしていないが、福祉関係施設を運営している社会福祉法人長岡福祉協会の3法人である。プロポーザルを受けての検討会議を1月22日に行う。そこで選定団体を決定し、それに基づいて市長が団体を決定する。今後のスケジュールとしては、決定した団体について市政だより2月号で周知する。3月議会で、関係条例の改正や必要な議決を行い、4月より引継保育を開始する。

(大橋委員長) 質疑、意見はあるか。

(中村委員) 長岡市立移管先法人検討会議委員の中に税理士がいるが、経営状態などの評価を行うためか。

(大野保育課長) 保育園運営の内容のほかに、法人の経営状態も審査基準となるため、専門的立場から評価するために、税理士から委員に入ってもらっている。

(加藤教育長) 引継保育とは具体的にどんなものか。

(大野保育課長) 民営化に伴い公立保育園が私立保育園に変わること、突然、保育の運営方針や地域との関わり方が大きく変わってしまうと、保護者や子どもたちも不安であろうということで、それを避けることが目的である。民営化開始前の1年間で、新しい園長や主任保育士から公立保育園の運営の仕方、実際の地域との関わり方について学んでもらうことや、クラス担任には期間を定めて実際に携わることにより子どもたちの様子を知ってもらう、調理師には公立保育園の給食のやり方やアレルギー対応の仕方などについても学んでもらうことなどを予定しており、1年間かけてやっていきたいと考えている。

(加藤教育長) 保護者の関心が高い部分であると思うので、2月の市政だよりには、決定した法人を知らせるだけでなく、円滑な引継のために行う具体的な事例を示してもらいたい。

(大野保育課長) 可能な範囲で詳しく記載できるよう検討する。

(大橋委員長) 他に、質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。

(大橋委員長) 次に、催し案内について、補足説明を求める。

(金垣中央図書館長) 栃尾美術館で開催される第9回アートクラブグランプリ長岡巡回展についてだが、全国の入賞作品のほかに、県内の入賞・入選作品を4点展示する。そのうち、佳作を受賞した秋葉中学校、宮内中学校美術部の2作品を展示する。いずれも素晴らしい作品なので、是非ご覧いただきたい。

(波多子ども家庭課長) 「長岡市P連ゲーム機・スマホルール」の活用調査結果について、全学校の取組状況を把握したので報告する。保護者に配付した学校が40校、今後保護者に配付予定の学校が16校である。この16校については、ただ配付するのではなく、保護者が集まる機会をとらえて効果的な配付を行いたいとしている。小中連携事業として活用した、今後活用したいとした学校が13校である。川口中学校区では、小中共通の家庭学習・生活見直し強調週間の取組に活用した。中之島中学校区は、小中の共通ポスターを作成し、保護者に配付した。刈谷田中学校区では、小中学生がともに参加する「いじめ見逃しゼロスクール集会」で、特にSNSについて意見を交わし、子どもたちの宣言を行ったと聞いている。大島中学校区、山本中学校区については今後取り組みたいとのことだった。活用方法を検討中である学校は15校であり、PTA主催の講演会や、小中学校の連携、学校独自ルールの策定、家庭ルールの策定を促すような取組での活用を検討しているとのことだった。学校独自のルールがあるので参考程度とした学校が18校であった。回答学校数は88校で、総合支援学校を除く全学校から回答があった。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員